

海外の畜産物の需給動向

牛肉

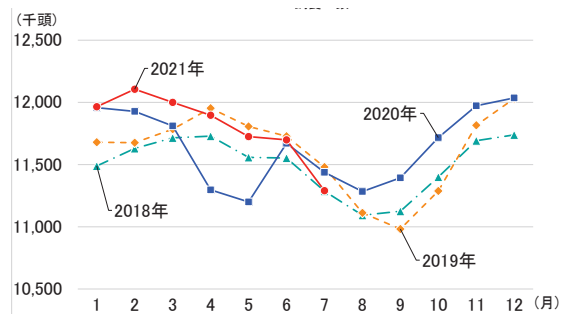
米 国

肉用牛飼養頭数は当面の間減少傾向と予測

減少続けるフィードロット飼養頭数

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）の「Cattle on Feed」によると、2021年6月のフィードロット導入頭数は前年同月比7.1%減の167万頭、出荷頭数は同2.7%増の202万2000頭となった。その結果、7月のフィードロット飼養頭数は1129万頭で前年同月を1.3%下回った（図1）。この数字は本年2月のピーク時よりも6.7%の減少となっている。現地報道では、21年初頭の食肉処理施設での労働力不足などによると畜が滞った状況が改善されたことを要因としており、当面の間、出荷頭数が増えることからフィードロット飼養頭数は減少傾向で

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

推移するとみられている。

また、同じくUSDA/NASSが公表した「Cattle」によると、7月1日時点の牛総飼養頭数は1億90万頭と前年を1.3%下回った（表1）。内訳を見ると、乳用牛の繁殖雌牛は前年比1.6%増の950万頭、乳用繁殖後継牛

表1 種類別牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	102,200	100,900	▲1.3%
繁殖雌牛	41,400	40,900	▲1.2%
肉用牛	32,050	31,400	▲2.0%
乳用牛	9,350	9,500	▲1.6%
未經産牛 ※1	16,200	16,000	▲1.2%
肉用繁殖後継牛	4,400	4,300	▲2.3%
乳用繁殖後継牛	4,000	4,100	▲2.5%
その他	7,800	7,600	▲2.6%
去勢牛 ※1	14,700	14,500	▲1.4%
種雄牛 ※1	2,100	2,100	0.0%
子牛 ※2	27,800	27,400	▲1.4%

資料：USDA「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

注2：各年7月1日現在。

は同2.5%増の410万頭と共に増加しているものの、肉用牛の繁殖雌牛は同2.0%減の3140万頭、肉用繁殖後継牛は同2.3%減の430万頭と減少している。肉用繁殖経営における飼養頭数の減少は、西部を中心とした広範囲の干ばつも一因であるとみられている。

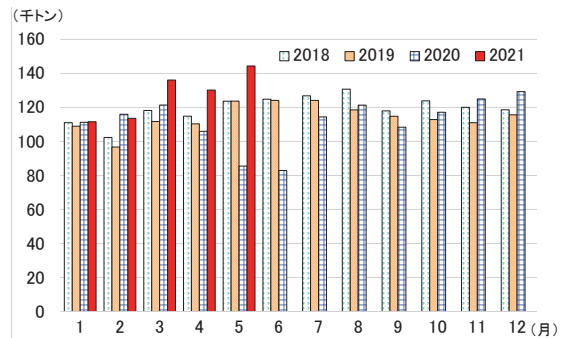
今後の総飼養頭数増減の目安となる子牛生産頭数を見ると、18年のピーク時から徐々に減少しつつある。このため現地では、総飼養頭数およびフィードロット飼養頭数の減少は今後も続くとみられている。一方で、肉牛生産者にとっては、牛の供給減少と牛肉需要の高まりにより、今後、子牛、導入もと牛、肥育牛の価格はいずれも上昇が見込まれているが、それを上回る飼料穀物やサプリメントなどの価格の上昇も見込まれるため、収益性の低下が予想されている。

旺盛なアジア需要を受け、5月の輸出量は過去最高を記録

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2021年5月の牛肉輸出量は14万4395トン（前年同月比68.9%増）と、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック（世界的流行）の影響で輸出量が減少した前年同月から大幅に増加した。また、この数字はパンデミック前の2019年同月と比較しても16.7%増となっている。経済回復に伴う世界的な牛肉需要の高まりを背景に3月から堅調な推移が続いており、5月の輸出量は単月実績として過去最高となっている（図2）。

同月の輸出量を輸出先別に見ると、韓国、日本、中国向けの増加が大きく影響している（表2）。首位の韓国向けは3万7958トン（同

図2 牛肉輸出量の推移



資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]
注：枝肉重量ベース。

69.6%増)で単月の輸出実績としては過去最高を記録した。USDAによると、韓国国内の旺盛な需要に加え、米韓自由貿易協定に基づき21年1月から牛肉の輸入関税率の引き下げが行われたことが増加の要因とされている。また、第2位の日本向けは、3万6728トン（同41.4%増）と大幅に増加している。本年3月18日から日米貿易協定に基づく30日間のセーフガード発動を受け、本年1～5月の累計では前年同期比6.6%減となったものの、同協定に基づき21年度の関税率が引き下げられたことから輸出量は回復している。また、大幅な増加が続いている中国向けは前年同月比約10倍となる2万997トンとなった。USDAは、米中経済貿易協定の第1段階の合意により、米国産牛肉の大部分が中国市場に輸出可能となったことに加え、同国国内の豚肉供給不足を補うための動物性たんぱく質需要が堅調であることが牛肉輸出増加の一因と分析している。

USDAは、これら旺盛なアジアの輸入需要を受け、21年の牛肉輸出量の予測値を155万2193トンに、22年は150万5927トンにいずれも上方修正した。

表 2 米国の輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年	2021年	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年	前年同期比 (増減率)
	5月	5月			(1~5月)	
韓国	22,386	37,958	69.6%	26.3%	156,052	26.8%
日本	25,977	36,728	41.4%	25.4%	157,481	▲ 6.6%
中国	2,110	20,997	895.2% (約 10.0 倍)	14.5%	84,293	1,177.9% (約 12.8 倍)
カナダ	9,619	11,279	17.3%	7.8%	51,341	▲ 8.2%
メキシコ	3,745	10,847	189.6% (約 2.9 倍)	7.5%	62,070	10.7%
台湾	5,637	8,005	42.0%	5.5%	33,198	▲ 5.3%
香港	9,811	5,035	▲ 48.7%	3.5%	26,356	▲ 23.8%
その他	6,221	13,545	117.7%	9.4%	65,091	8.0%
合計	85,507	144,395	68.9%	100.0%	635,882	17.7%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部 上村 照子)

豪州

良好な天候を背景に牛群再構築が急速に進展

牛の価格上昇に伴い、平均枝肉重量は増加の見通し

豪州食肉家畜生産者事業団 (MLA) が四半期に一度公表している豪州肉用牛産業の見通しによると、2021年度 (21年7月~22年6月) の飼養頭数、平均枝肉重量、生産量は、推定値ながらも前回公表 (21年4月) からいずれも上方修正された。このうち飼養頭数は2605万頭 (前年度比6.0%増) とされ、引き続き牛群再構築の進展が見込まれている

(表3)。また、近時の肉牛の価格上昇に加え、豪州気象局 (BOM) の予報では今後も降雨に恵まれた良好な天候が続くとされることで、潤沢な飼料供給が見込まれることなどを理由に、平均枝肉重量は311.7キログラム (同5.7%増) と増加が見込まれている。一方、と畜頭数は630万頭 (同12.1%減) と下方修正された。生産量は、と畜頭数の減少が見込まれるものの平均枝肉重量の増加から196万4000トン (同7.0%減) と減産ながら上方修正された。なお、MLAによると、

表 3 肉用牛生産の見通し

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
飼養頭数 (千頭)	28,052	26,187	24,621	26,046	27,223	28,039
と畜頭数 (千頭)	7,873	8,482	7,171	6,300	6,850	7,350
平均枝肉重量 (kg)	290.8	283.6	294.8	311.7	311.8	314.9
生産量 (千トン)	2,289	2,405	2,111	1,964	2,136	2,315
牛肉輸出量 (千トン)	1,126	1,229	1,039	935	1,060	1,175

資料：ABS (豪州統計局)、DAWE (豪州農業・水・環境省)、MLA

注1：年度は7月~翌年6月。

注2：2021年度は推定値、2022年度以降は予測値。

注3：牛肉輸出量は部分肉ベース。

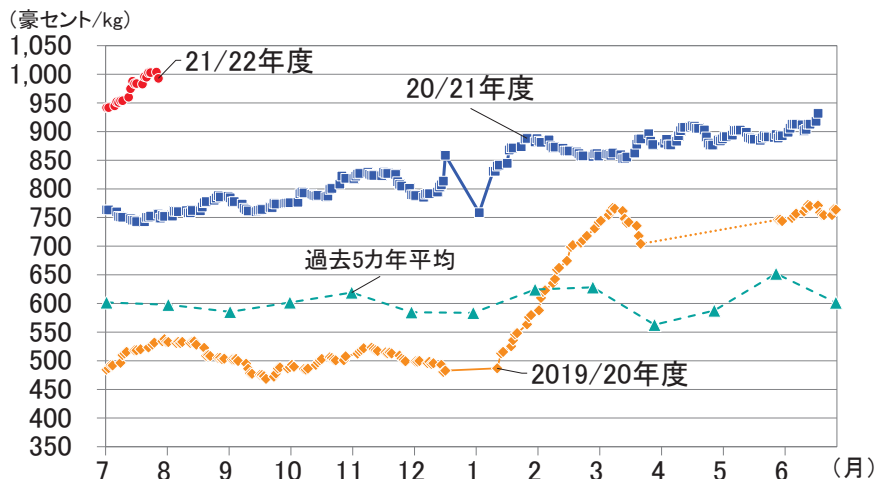
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入国制限などにより、食肉加工部門では最大4000人の雇用が不足しており、と畜頭数減少の一因になっているとしている。

また、家畜市場での取引頭数が増加傾向であるにもかかわらず、牛群再構築に向けた高い牛の需要を背景に、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は依然として高値を探る動きを見せ、7月26日に過去最高となる1キログラム当たり1004豪セント（833円：1豪ドル=83円）となり、記録更新を続けている（図3）。

MLAでは、豪州の東部と北部の大部分で降雨による良好な放牧環境が維持されていることや、子牛生産のための若齢雌牛の頭数が多いこと、また、牛の健康と栄養管理に多くの資金が投入されていることなどが、牛群再構築を予想以上に早める要因になっていると分析している。

牛の取引頭数の増加と購買者の需要が落ち着くことなどが見込まれる中、MLAの予測データによると、記録的な高値で推移するEYCIは、年内には同874豪セント（725円）まで下落するとされている。

図3 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

輸出量は依然低水準

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、と畜頭数の減少などにより2021年6月の牛肉輸出量は7万3551トン（前年同月比23.8%減）となった。さらに、同年1～6月の累計は42万2412トン（前年同期比23.7%減）といずれも大幅に減少した（表4）。

輸出先別に見ると、日本向けは2万1000トン（前年同月比3.3%減）とやや減少し、1～6月の累計では11万1890トン（前年同期比18.8%減）と大幅に減少している。韓国向けは1万2480トン（前年同月比17.5%減）と大幅に減少し、1～6月の累計でも7万6181トン（前年同期比1.9%減）とわずかに減少している。米国向けは1万

2163トン（前年同月比53.5%減）、1～6月の累計では6万5233トン（前年同期比43.1%減）と、いずれも大幅に減少している。

表4 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～6月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
日本	21,715	21,000	▲ 3.3%	111,890	▲ 18.8%
韓国	15,119	12,480	▲ 17.5%	76,181	▲ 1.9%
米国	26,161	12,163	▲ 53.5%	65,233	▲ 43.1%
中国	16,963	11,769	▲ 30.6%	72,154	▲ 40.5%
東南アジア	8,059	8,025	▲ 0.4%	48,053	▲ 8.3%
中東	1,715	2,288	33.4%	14,809	21.7%
EU	489	435	▲ 11.1%	3,928	▲ 17.6%
その他	6,273	5,391	▲ 14.1%	30,163	▲ 9.0%
輸出量合計	96,495	73,551	▲ 23.8%	422,412	▲ 23.7%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、パレールン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

(調査情報部 国際調査グループ)

N Z

2021年6月の牛肉の輸出量、輸出額ともに好調に推移

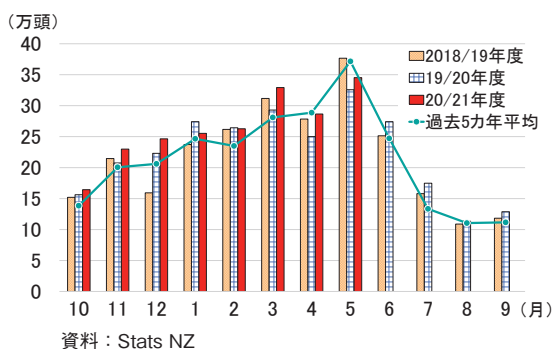
2020/21年度の牛と畜頭数、前年増で推移

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2020/21年度 (10月～翌9月) の牛と畜頭数は、21年5月までの累計で前年同期比6.3%増の212万頭とかなりの程度増加している (図4)。増加の要因について Stats NZは、20年1～5月にかけての干ばつの発生や21年も同様の事態が懸念されたことで生産者が家畜を早期に出荷したことを挙げている。特に出荷が多かった20年10～12月のと畜頭数を見ると、前年同期比9.2%増の64万頭と四半期実績としては過去最大

となった。

同期間 (20年10月～21年5月) のと畜頭数の内訳を見ると、去勢牛 (48万頭、前年同期比17.1%増)、雄牛 (47万頭、同2.7%増) および未経産牛 (41万頭、同18.6%増) が増加した一方、経産牛 (75万頭、同2.8%減) のうち、乳用種は、生産者乳価が高い水準で推移したことで酪農部門での保留傾向が強まり、前年同期をわずかに下回った。

図4 と畜頭数の推移



2021年6月の牛肉輸出量、中国向けは前年同月比51.5%増の大幅な増加

Stats NZによると、2020/21年度の牛肉輸出量は、21年6月までの累計で38万

2820トン（前年同期比4.1%増）とやや増加している（表5）。うち、冷蔵牛肉が3万85トン（同12.7%増）、冷凍牛肉が35万1884トン（同3.2%増）と冷蔵牛肉の伸びが目立っている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは15万3343トン（同5.9%増）とやや増加した。一方、米国向けは12万8013トン（同11.6%減）とかなり大きく減少した。これは、18年8月に中国で発生したアフリカ豚熱による豚肉供給の減少から牛肉需要が高まったことで、米国などに輸出されていた牛肉の一部が中国に仕向けられていることが背景にあるとみられる。米国農務省(USDA)によると、中国向けおよび米国向けの牛肉輸

表5 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 6月	2021年 6月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (10月～ 翌6月計)	
				2020/21年度 (10月～ 翌6月計)	前年同期比 (増減率)
中国	13,649	20,678	51.5%	153,343	5.9%
冷蔵	959	1,053	9.8%	7,634	▲1.7%
冷凍	12,690	19,625	54.7%	145,709	6.4%
米国	22,117	16,793	▲24.1%	128,013	▲11.6%
冷蔵	522	683	30.9%	5,295	▲31.8%
冷凍	21,595	16,109	▲25.4%	122,719	▲10.4%
カナダ	1,297	295	▲77.3%	10,219	▲20.9%
冷蔵	133	145	9.6%	622	22.5%
冷凍	1,164	149	▲87.2%	9,597	▲22.7%
台湾	1,832	2,352	28.4%	14,347	▲6.1%
冷蔵	203	116	▲43.0%	1,100	▲15.2%
冷凍	1,629	2,236	37.3%	13,247	▲5.3%
日本	2,316	3,903	68.5%	22,983	23.0%
冷蔵	605	554	▲8.6%	5,183	6.3%
冷凍	1,710	3,349	95.8%	17,800	28.9%
韓国	1,486	1,372	▲7.7%	13,738	6.2%
冷蔵	5	1	▲81.8%	155	474.3%
冷凍	1,481	1,371	▲7.4%	13,583	5.2%
その他	1,971	3,038	54.1%	20,304	1.7%
冷蔵	711	627	▲11.9%	5,944	▲3.7%
冷凍	1,260	2,411	91.4%	13,510	▲2.1%
合計	47,394	51,399	8.5%	382,820	4.1%
冷蔵	3,462	3,554	2.7%	30,085	12.7%
冷凍	43,932	47,845	8.9%	351,884	3.2%

資料：Stats NZ

注：船積重量ベース。

出量は、過去2年間の傾向を維持し、引き続きニュージーランド（NZ）の牛肉輸出量全体の70%以上を占めることになると予測されている。

21年6月単月の実績を見ると、輸出量は5万1399トン（前年同月比8.5%増）とかなりの程度増加した。このうち、米国向けは1万6793トン（同24.1%減）、カナダ向けは295トン（同77.3%減）といずれも大幅に減少したものの、最大の輸出先である中国向けが2万678トン（同51.5%増）と大幅に増加している。また、日本向けも3903トン（同68.5%増）と大幅に増加した。これは、牛群再構築に伴う豪州産の生産量の減少による相場の高騰などにより、NZ産の引き合いが強まったためとみられる。

Stats NZによると、21年6月のNZの総輸出額が過去最高を記録したとされている^(注)。このうち、牛肉は前年同月比8%増の4億1100万NZドル（324億6900万円：1NZドル=79円）と単月実績で最高値を記録した。豪州での牛群再構築に伴う牛肉供給量の減少からNZ産牛肉への需要が高まっていることに加え、21年に入り、米ドルに対しNZドル安で推移している為替相場も輸出額を押し上げる一因になったとみられる。

(注) 海外情報「2021年6月の牛肉輸出額、過去最高値を記録（NZ）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003015.html)を参照されたい。

(調査情報部 廣田 李花子)

アルゼンチン

2021年牛肉生産量、減少傾向で推移

2021年5月牛と畜頭数、前年同月比15.4%減

アルゼンチン農牧漁業省によると、2021年1～5月の牛と畜頭数は前年同期比6.0%減の523万4000頭とされた（図5）。20年の牛と畜頭数は、19年に続き中国向け輸出需要が強かったこと、また、肉牛価格が高値で推移したことや多くの地域で乾燥気候となったことなどから高水準で推移したが、21年はその反動もあり減少している。特に本年5月は、96万9000頭（前年同月比15.4%減）と前年同月をかなり大きく下回った。

牛肉生産量は、2017年から4年連続で増

加して推移したが、21年1～5月の実績を見ると、と畜頭数の減少を反映して前年同期比5.1%減の118万3000トンと減少傾向で推移している（図6）。

図5 月別と畜頭数の推移

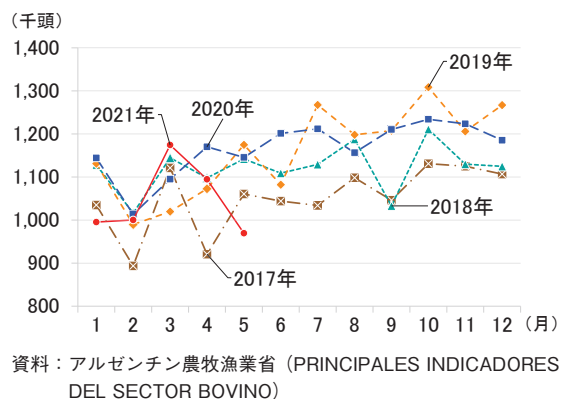
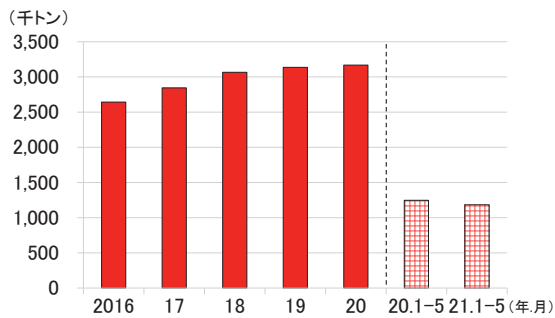


図6 牛肉生産量の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省
注：枝肉重量ベース。

2021年1～6月牛肉輸出量は増加を維持するものの今後は減少の見込み

アルゼンチン国家統計院によると、2021年1～6月の牛肉輸出量は、前年同期比7.0%増の29万1037トンと、かなりの程度増加した(表6、図7)。

輸出先別に見ると、輸出量全体の79%を占める中国向けは、近年、経済発展に伴う所得の増加などによる牛肉の需要拡大に加え、18年に同国で発生したアフリカ豚熱に伴う代替需要から大幅に増加している。なお、

20年は、2～3月にかけて新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響による中国国内での港湾の物流停滞や消費の落ち込みなどにより輸出量が減少したものの、その後は回復している。21年1～6月の中国向け輸出量は、同9.0%増と増加傾向を維持しており、アルゼンチンの牛肉輸出をけん引している。一方、輸出額は、米ドルに対するアルゼンチンペソ安を反映し同6.9%減とかなりの程度減少した結果、輸出単価は同14.6%減とかなり大きく低下した(図8)。また、中国に次ぐ輸出先であるチリ(同14.7%増)、イスラエル(同22.1%増)向けは増加した。一方、18年12月に生鮮牛肉の輸出が再開され20年に急増した米国向けは、同17.4%減と減少に転じた。

なお、21年6月の輸出量は、前年同月比31.1%減の3万4116トンと大幅に下回った。これは、アルゼンチン政府が5月20日から牛肉輸出制限を講じたため(後述参照)であり、7月以降も減少傾向が続くとみられる。

表6 牛肉輸出量および輸出額の推移

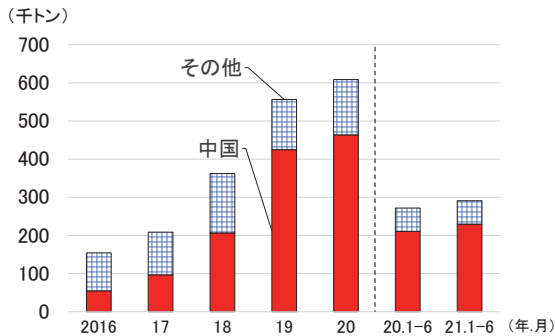
区分	2020年(1～6月)			2021年(1～6月)			前年同期比(増減率)		
	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
中国	210,806	854,016	4,051	229,807	794,893	3,459	9.0%	▲6.9%	▲14.6%
チリ	13,877	82,373	5,936	15,920	92,048	5,782	14.7%	11.7%	▲2.6%
イスラエル	12,200	87,909	7,206	14,895	101,477	6,813	22.1%	15.4%	▲5.5%
ドイツ	9,822	88,350	8,995	9,549	85,840	8,989	▲2.8%	▲2.8%	▲0.1%
米国	8,203	40,046	4,882	6,777	44,122	6,510	▲17.4%	10.2%	33.4%
オランダ	5,350	46,656	8,721	4,965	44,667	8,996	▲7.2%	▲4.3%	3.2%
ブラジル	2,826	23,155	8,194	4,431	31,606	7,133	56.8%	36.5%	▲12.9%
イタリア	2,124	17,970	8,460	1,810	16,338	9,026	▲14.8%	▲9.1%	6.7%
ロシア	5,648	19,184	3,397	1,513	5,182	3,425	▲73.2%	▲73.0%	0.8%
その他	1,097	9,261	8,442	1,370	11,780	8,599	24.9%	27.2%	1.9%
合計	271,953	1,268,919	4,666	291,037	1,227,952	4,219	7.0%	▲3.2%	▲9.6%

資料：アルゼンチン国家統計院

注1：製品重量ベース。

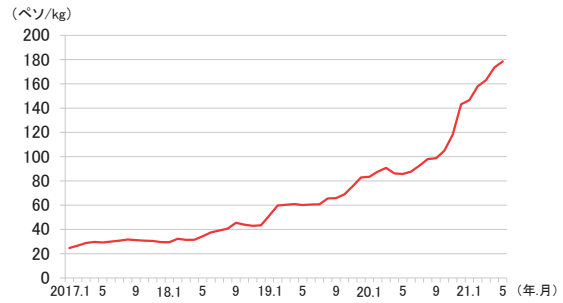
注2：HSコード0201(冷蔵牛肉)、0202(冷凍牛肉)の合計。

図7 牛肉輸出量の推移



資料：アルゼンチン国家統計院

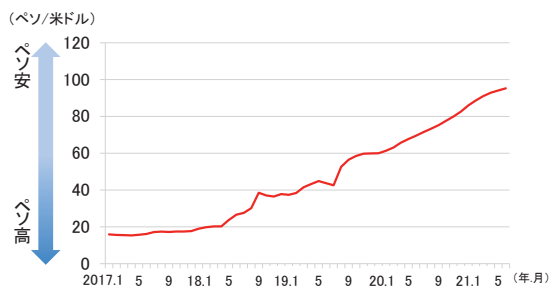
図9 肥育牛(去勢)の出荷価格の推移



資料：アルゼンチン農業省 (PRINCIPALES INDICADORES DEL SECTOR BOVINO)

注：リニエルス家畜市場における肥育牛(去勢)生体1キログラム当たりの価格。

図8 為替相場(米ドルに対するアルゼンチンペソ)の推移



資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「現地参考為替相場」

注：各月の平均Sellingレートの推移。

間停止する措置を講じた。その後同国政府は6月22日に牛肉輸出の再開を決定したが、輸出量の上限設定や一部品目を輸出対象から除外するなど条件を付けており、21年末まで何らかの輸出制限が継続されることとなった(注)。

(注) 海外情報「アルゼンチン政府、30日間の牛肉輸出停止措置を公表」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002955.html)、「アルゼンチン、条件付きで牛肉輸出再開を決定」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002990.html)を参照されたい。

肥育牛(去勢)出荷価格は上昇傾向が加速

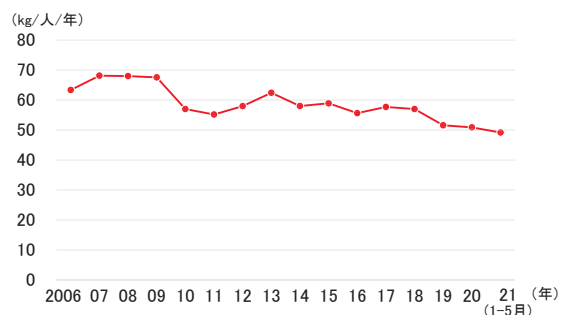
肥育牛(去勢)の出荷価格は、近年、堅調な牛肉の輸出需要やインフレの進行などにより、アルゼンチンペソ建てで見ると上昇傾向で推移している。アルゼンチンの肉用牛相対取引の指標とされるリニエルス家畜市場における2021年5月の出荷価格は、前年同月比108.3%高の1キログラム当たり178.52ペソ(約209円:1ペソ=1.17円)と1年間で2倍以上となり、価格の上昇傾向が加速している(図9)。

こうした中、アルゼンチン政府は5月、最近数カ月間にわたり上昇を続ける国内牛肉価格を抑制し、国内消費を回復させるための対策として、牛肉の輸出を5月20日から30日

1人当たり牛肉消費量は引き続き減少

アルゼンチン農牧漁業省によると、1人当たりの牛肉年間消費量(1~12月の各月に

図10 1人当たり牛肉年間消費量の推移



資料：アルゼンチン農牧漁業省

注：1~12月の各月に公表される年間消費量の平均値。

公表される年間消費量の平均値)は、長期的に減少傾向で推移している。さらに、2021年1～5月の平均消費量は、COVID-19による経済状況の悪化などを反映して、49.2

キログラムと50キログラム台を下回る水準まで減少した(図10)。

(調査情報部 井田 俊二)

豚 肉

ブラジル

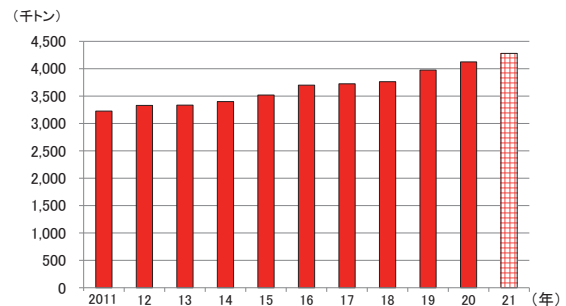
2020年の豚肉輸出量は2年連続で大幅な増加

2021年の豚肉生産量は引き続き増加の見込み

米国農務省海外農業局(USDA/FAS)の7月12日の公表によると、2020年のブラジルの豚肉生産量は前年比3.8%増の412万5000トンとされている(図11)。また、輸出が引き続き堅調であることから、21年は同3.8%増の428万トンと長期的な増加傾向が継続すると予測している。豚肉の増産は、中国でのアフリカ豚熱発生に伴う同国からの強い代替需要のほか、米ドルに対するレアル安の進行により生産者の増頭意欲が高まったためとみられる。

海外需要が堅調に推移する一方、国内の豚肉価格は、飼料価格の上昇に伴い大幅に上昇した。20年の豚肉価格(パラナ州の生体取引価格)は、11月に年初より57.9%上昇し、その後やや下落したものの依然高水準で推移している(図12)。このため、20年の国内消費量は、大幅な国内価格の上昇に加え新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大に伴う経済状況の悪化などにより前年を下回った。

図11 豚肉生産量の推移

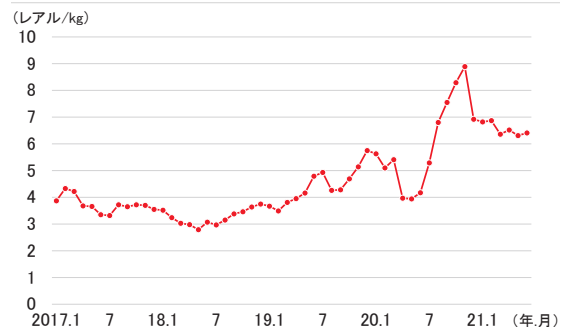


資料: USDA/FAS

注1: 枝肉重量ベース。

注2: 2021年は予測値。

図12 豚肉価格の推移



資料: サンパウロ大学農学部応用経済研究所(CEPEA)

注: パラナ州における生体取引価格。

2020年中国向け豚肉輸出量はほぼ倍増、3年連続で大幅増

ブラジル開発商工省貿易局(SECEX)によると、2020年の豚肉輸出量は、前年比37.2%増の90万1103トンとされ、2年連

続で前年を大幅に上回った（表7）。中国をはじめ海外からの堅調な需要に加え、20年初頭から米ドルに対するレアル安が進み、その後もレアル安の状況が続いたためとみられる（図13）。

輸出先別に見ると、中国向けは、同国でのアフリカ豚熱発生に伴う代替需要により同98.8%増の49万8057トンとほぼ倍増し、3年連続で大幅に増加した。全輸出量に占める中国向けの割合は、19年より17.2ポイント増加して55.3%となった。全体の輸出量が増加する中、中国向け以外の輸出量も増加

している。特にシンガポール向け（同49.1%増）、ベトナム向け（同205.7%増）、日本向け（同94.9%増）が大幅に増加した。

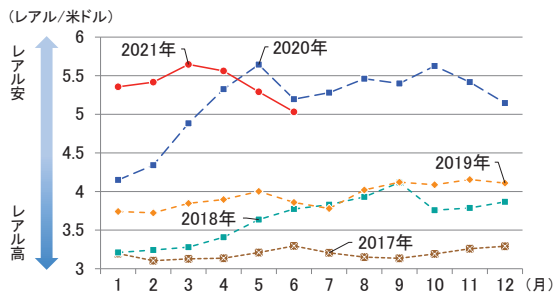
21年1～6月の豚肉輸出量の実績を見ると、前年同期比18.8%増の50万497トンと増加傾向が継続している。中国向けは、同国内での豚肉生産の回復が急速に進む一方、依然として同27.0%増の28万6594トンと前年同期を上回っている。ただし、21年5月には、19年3月以来2年2カ月（26カ月）ぶりに前年同月を下回った。

表7 輸出先別豚肉輸出の推移

輸出先	2020年			前年比(増減率)			2021年(1～6月)			前年同期比(増減率)		
	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米/ト)	輸出量	輸出額	単価	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米/ト)	輸出量	輸出額	単価
中国	498,057	1,231,061	2,472	98.8%	99.0%	0.1%	286,594	755,545	2,636	27.0%	32.0%	3.9%
香港	110,626	238,174	2,153	1.7%	6.5%	4.8%	57,343	133,385	2,326	▲10.6%	▲5.2%	6.1%
チリ	43,840	101,402	2,313	▲3.0%	2.8%	6.0%	30,845	78,424	2,543	82.9%	107.0%	13.2%
シンガポール	52,122	126,125	2,420	49.1%	51.4%	1.5%	21,854	56,161	2,570	▲21.4%	▲18.5%	3.7%
ウルグアイ	36,984	89,253	2,413	▲5.3%	2.0%	7.7%	19,872	46,982	2,364	6.9%	0.8%	▲5.7%
アルゼンチン	19,041	49,800	2,615	▲36.4%	▲29.2%	11.4%	14,200	38,651	2,722	78.0%	83.0%	2.8%
ベトナム	38,527	81,009	2,103	205.7% (約3.1倍)	229.0% (約3.3倍)	7.6%	12,844	29,197	2,273	43.0%	52.6%	6.7%
アンゴラ	18,620	16,007	860	17.0%	▲0.2%	▲14.7%	11,154	10,428	935	5.6%	7.0%	1.3%
フィリピン	3,862	8,467	2,192	15.3%	18.4%	2.7%	8,738	19,395	2,220	720.5% (約8.2倍)	682.9% (約7.8倍)	▲4.6%
日本	11,153	43,309	3,883	94.9%	110.3%	7.9%	5,735	23,839	4,157	1.3%	10.2%	8.8%
その他	68,271	135,858	1,990	▲38.4%	▲42.7%	▲7.0%	31,318	73,397	2,344	▲7.8%	8.5%	17.8%
合計	901,103	2,120,464	2,353	37.2%	42.5%	3.9%	500,497	1,265,404	2,528	18.8%	25.5%	5.6%

資料：SECEX
注1：製品重量ベース。
注2：HSコード0203。

図13 為替相場(米ドルに対するレアル)の推移

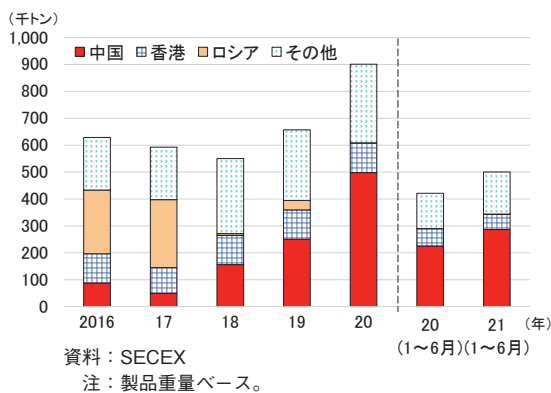


資料：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「現地参考為替相場」
注：各月の平均Sellingレートの推移。

近年の輸出動向を見ると、ロシアは16～17年に全輸出量の4割程度を占める最大の輸出先であったが、17年12月～18年10月の間、同国がブラジル産豚肉の輸入禁止措置を講じたことから、この間輸出が行われなかった。ロシアによる輸入禁止措置解除後、19年は3万5523トン、20年は101トンと同国向け輸出は回復していない（図14）。これは、ロシアの豚肉生産が増加したことや

ルーブル安で推移する為替相場などが背景にあるとみられる。ロシア向けが急減する一方で中国向けが大幅に増加し、同国向け輸出量は17～20年の3年間で10.2倍となった。また、ブラジルでは、中国向け以外にもチリ、ウルグアイなどの南米向け、シンガポール、ベトナム、フィリピン、日本、韓国などアジア向けや米国向け輸出が増加した。

図 14 豚肉輸出量の推移



豚主産地の南部地域3州が口蹄疫ワクチン非接種清浄地域に

国際獣疫事務局（OIE）は5月27日、ブラジルの6地域を口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として認定することを決定した。この結果、ブラジルにおける口蹄疫ワクチン非接種清浄地域は、認定済みのサンタカタリーナ州と合わせ5州の全域および2州の一部となった。

ブラジルでは、南部地域が最大の豚生産地で同国全体の49.5%の豚が飼養されている。今回の決定によりサンタカタリーナ州に加え、パラナ州およびリオグランデスル州の南部地域3州がすべて口蹄疫ワクチン非接種清浄地域となった。動物性タンパク質協会（ABPA）では、今回の決定により今後、これらの州からの日本、米国、韓国、チリ、フィリピンなど世界で最も要件、基準の厳しい地域への輸出が進む可能性があるとしている^(注)。

(注) 海外情報「口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として6地域を追加（ブラジル）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002959.html)を参照されたい。

(調査情報部 井田 俊二)

中国

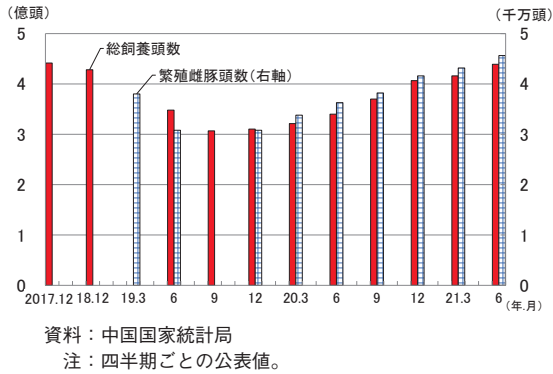
豚飼養頭数は7期連続で回復、価格は下落傾向

豚飼養頭数は2017年水準に回復

中国国家統計局によると、2021年6月末時点（四半期ごとに公表）の総飼養頭数は前年同月比29.2%増の4億3911万頭と7期連続で増加し、アフリカ豚熱発生前の17年末

時点の99.4%まで回復している（図15）。このうち、繁殖雌豚頭数は同25.7%増の4564万頭となった。中国国家統計局は、政府による各種支援策により、養豚場の新設や規模拡張が進んだことで生産能力が急速に回復しているとみている。

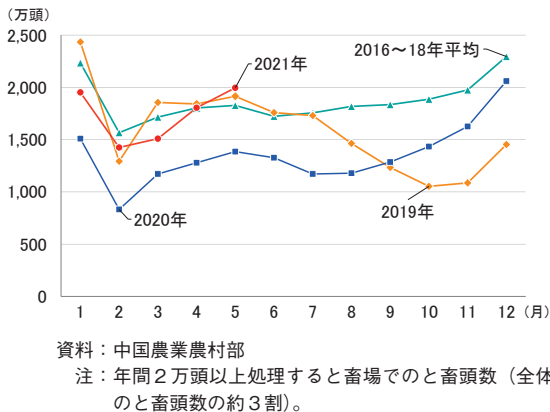
図 15 豚飼養頭数の推移



2021年5月の豚と畜頭数は過去3カ年で最多を記録

2021年3月以降の豚と畜頭数は前年同月を上回る水準で推移しており、5月は前年同月比44.1%増の1995万6500頭と単月実績では過去3カ年で最も多い頭数を記録した(図16)。総飼養頭数の回復を背景にアフリカ豚熱の再発生および豚肉価格の低下に対する懸念から、と畜を急ぐ生産者もいたとされている。

図 16 豚と畜頭数の推移

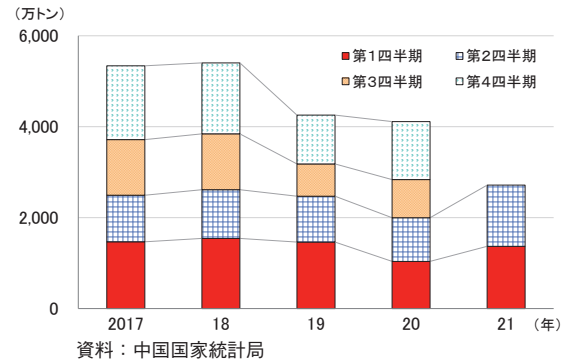


豚肉生産量は引き続き前年同期を大幅に上回る

中国国家统计局によると、2021年上半期(1~6月)の豚肉生産量は前年同期比35.9%増の2715万トンとなり、供給量は大

幅に回復している(図17)。

図 17 豚肉生産量の推移



子豚価格、豚肉価格ともに下落傾向

豚肉供給量が大幅に回復する中、豚肉価格は2月以降、子豚価格は4月以降いずれも下落傾向にある。2021年6月の豚肉価格は前月比19.0%安の1キログラム当たり27.0元(464円：1元=17.2円)、子豚価格は前月比25.3%安の1キログラム当たり55.4元(953円)となった(図18)。中国農業農村部によると、21年初めの寒波で子豚の生存率がやや低下したことから、一部の養豚業者は需要拡大が見込まれる6月の端午節に向けて値上がりを期待し出荷を控えたものの、期待した値動きとはならず、投げ売りを行ったことも豚肉価格低下の一因とされている。

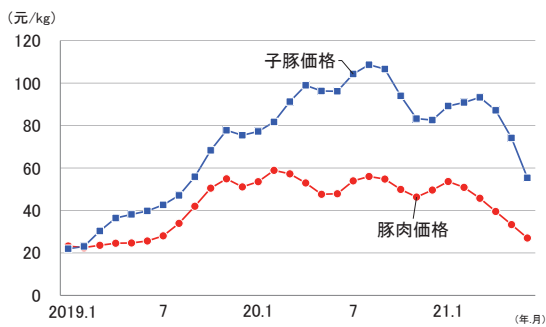
豚肉価格の下落が続く一方、飼料価格の高騰から養豚業者の経営環境は悪化しているとされている。このため、中国国家発展改革委員会は6月28日、「政府の豚肉備蓄調整メカニズムを改善し、豚肉市場の供給と価格の安定化を図る準備計画」に基づき、中央政府および地方政府による国家備蓄のための豚肉の買い入れおよび保管を開始すると発表した(注1)。同委員会によると、今回の措置は、6月21~25日の豚/穀物比(注2)が4.90：1となり、生体豚価格が過度に下落した状況での警

戒レベルで最も深刻な「1級」となったことから実施されるとされ、価格の低下に歯止めがかかることが期待されている。なお、8月4日時点で3回（7月7、14、21日）の買い付け（買付枠：5万3000トン）が実施されている。

(注1) 海外情報「豚肉価格下落を受けて国家備蓄のための豚肉の買入・保管を開始（中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002983.html)を参照されたい。

(注2) 政府による養豚生産者の収益性の指標値。算出方法は、1キログラム当たり生体豚出荷価格/1キログラム当たりトウモロコシ卸売価格。損益分岐点は7：1とされる。

図 18 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

輸入量は引き続き高水準も、やや落ち着きを見せる

豚肉輸入量は引き続き高水準で推移しているものの、一時期の輸入量に比べると落ち着きを見せており、4月以降の輸入量は減少傾向にある。2021年1～6月の輸入量は前年同期比7.7%増の223万3703トンとなった(表8)。これを輸入先別に見ると、EUの主要輸入先の一つであったドイツでのアフリカ豚熱発生の代替として、引き続き大幅に増加しているスペインからの輸入量は同94.4%増の72万583トンとなった。また、デンマークからの輸入量も同15.0%増の20万6844トンと前年をかなり大きく上回った。一方で、米国からの輸入量はアフリカ豚熱および新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により増加した前年同期の反動で同33.2%減の27万2384トンとなったが、3月以降、毎月4～5万トン台とおおむね安定的に輸入され、現時点で19年の年間輸入量を超過している状況にある。

表 8 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	23.8	22.0	38.2	93.4	72.1	94.4%
米国	16.6	8.6	24.5	69.6	27.2	▲33.2%
ブラジル	4.9	15.0	22.2	48.1	25.9	37.5%
ドイツ	21.2	22.8	32.3	46.2	0.2	▲99.2%
デンマーク	8.9	7.2	16.4	36.0	20.7	15.0%
カナダ	16.7	16.0	17.2	41.1	16.0	▲9.8%
その他	21.1	19.2	32.6	69.6	61.2	34.1%
合計	121.7	119.3	199.4	430.4	223.4	7.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

米 国

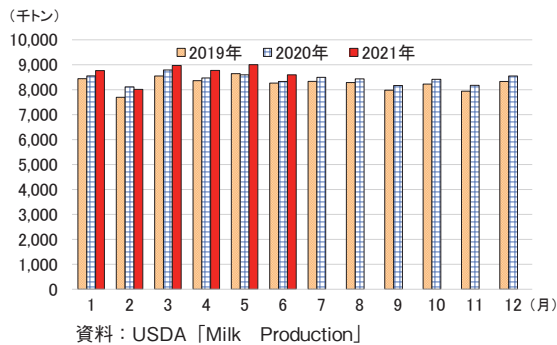
1～5月の乳製品輸出量は好調に推移

6月の生乳生産量、4カ月連続で前年同月を上回る

米国農務省（USDA）によると、2021年6月の生乳生産量は、前年同月比2.9%増の859万8000トンとなり、4カ月連続で前年同月を上回った（図19）。

米国の生乳生産量は、搾乳牛（乳用経産牛）頭数および1頭当たりの乳量の増加を背景に、19年後半から増加傾向となっており、20年以降は、同年5月および21年2月を除き、前年同月を上回って推移している。

図19 生乳生産量の推移



飼料費の高騰で酪農経営の収益低下

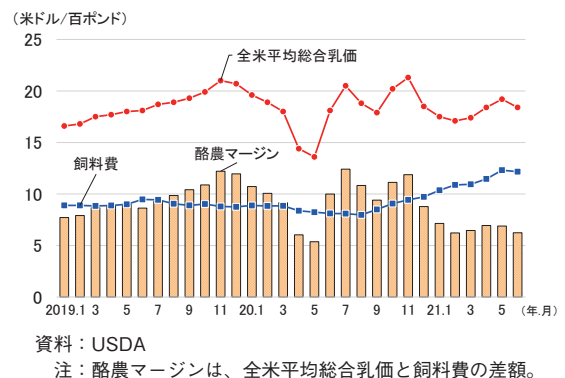
USDAによると、2021年6月の酪農マージン^(注)は、高騰する飼料費などを要因に生乳100ポンド当たり6.24米ドル（1キログラム当たり15.1円：1米ドル=110円）と新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大に伴う乳価急落により落ち込んだ前年4、5月に近い水準となった。直近の動きを

見ると、20年9月以降、飼料費が上昇傾向で推移し、記録的な水準となっていることから、21年2月以降の酪農マージンは同6米ドル台と低調に推移している（図20）。

飼料費の上昇については、米国内の底堅い飼料需要や中国の飼料穀物の輸入増などを背景に、2020/21穀物年度（9月～翌8月）の期末在庫が低水準見込みとされたことで、穀物相場が上昇していることが要因とみられる。6月の飼料価格は、トウモロコシが1ブッシェル当たり6米ドル（660円、前年同月比89.9%高）、大豆油かすが1トン当たり378米ドル（4万1580円、同31.0%高）、アルファルファ乾草が同215米ドル（2万3650円、同12.9%高）といずれも高水準になっている。

(注) 酪農家のセーフティネット制度である酪農マージン保証プログラム（DMC）において、全米平均総合乳価と飼料費の差額として算定される収益。酪農マージンが発動基準（酪農家が各自で選択^{ほてん}）を下回った場合、該当する酪農家に対して補填が発動される。

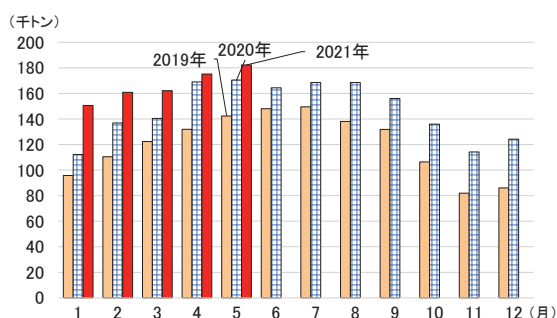
図20 酪農マージンの推移



バターやホエイの輸出量、前年を大幅に上回って推移

2021年5月の主要乳製品の輸出量を品目別に見ると、バターは、高水準な在庫を背景に米国産は価格面で優位性があり、輸出量は前年同月比で約3倍となった(図21、表9)。

図 21 バターの期末在庫の推移



資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

脱脂粉乳についても、輸出先での好調な需要や米国産の価格優位性から、経済回復が急速に進んでいるメキシコや中東・北アフリカ向けを中心に輸出量は引き続き好調に推移している。チーズは、前年の米国内の相場安に伴う価格優位性などにより、アジア向けを中心に輸出量が多かったことから、前年同月をかなり大きく下回った。ホエイは、飼料用として中国向けが引き続き好調に推移しており、在庫は低水準で推移している。米国乳製品輸出協会(USDEC)は、輸出先の外食需要の回復でこれら米国産乳製品の輸出は今後数カ月間にわたって増加していくとみている。

2021年1～5月の主要乳製品の輸出量を品目別に見ると、輸出先の経済回復や米国産の価格優位性などを背景に、乳糖を除き、前年同期を上回っている。

表 9 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

	2021年	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比 (増減率)
	5月		(1～5月)	
バター	4.4	194.7% (約2.9倍)	19.8	169.5% (約2.7倍)
脱脂粉乳	88.7	12.1%	388.2	16.4%
チーズ	30.8	▲13.4%	163.6	5.8%
ホエイ	21.3	30.0%	102.9	29.6%
タンパク質濃縮ホエイ(WPC)	10.4	▲17.7%	58.8	4.6%
乳糖	37.7	3.5%	163.9	▲1.7%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

(調査情報部 河村 侑紀)

E U

生乳取引価格は季節傾向とは反対に上昇傾向で推移

5月の生乳出荷量は、前年同月を2.3%上回る

欧州委員会によると、2021年5月の生乳出荷量(EU27カ国)は前年同月をわずかに上回る1338万6200トン(前年同月比2.3%)

増)となった(図22)。

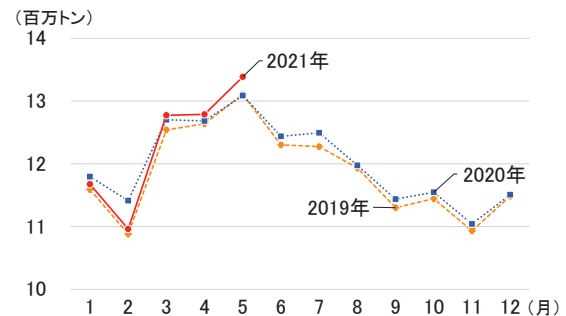
5月の出荷量を国別に見ると、ドイツ(同0.0%増)、オランダ(同0.0%減)が前年同月並みとなった一方、生乳出荷量第2位のフランス(同2.6%増)が増産傾向に転じたほか、アイルランド(同6.1%増)、ポーランド(同1.5%増)、イタリア(同10.6%増)、スペイン(同1.0%増)、デンマーク(同0.5%増)、ベルギー(同2.7%増)など主要生産国はいずれも前年同月を上回った(表10)。

なお、欧州委員会が7月5日に公表した農畜産物の短期的需給見通し(注)では、例年がない寒波で春先の生乳出荷量が減少したとしている。その後、平年並みの気温となった5月の降雨で牧草の生育状況が良好となったため、5～6月にかけて生乳出荷量は回復し、

通年では前年比0.8%増と前年を上回って推移すると見込まれている。

(注) 海外情報「欧州委員会、生乳・乳製品の短期的需給見通しを公表(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003009.html)を参照されたい。

図22 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表10 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2020年 5月	2021年 5月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～5月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,875	2,877	0.0%	13,682	▲1.8%
フランス	2,176	2,234	2.6%	10,658	▲1.9%
アイルランド	1,148	1,219	6.1%	3,716	8.3%
オランダ	1,214	1,213	▲0.0%	5,880	▲1.6%
ポーランド	1,111	1,128	1.5%	5,310	0.4%
イタリア	1,010	1,117	10.6%	5,321	3.4%
スペイン	655	662	1.0%	3,170	▲0.2%
デンマーク	492	494	0.5%	2,356	▲0.8%
ベルギー	389	399	2.7%	1,885	▲0.2%
その他	2,017	2,044	1.3%	9,607	▲0.0%
合計	13,088	13,386	2.3%	61,586	▲0.2%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

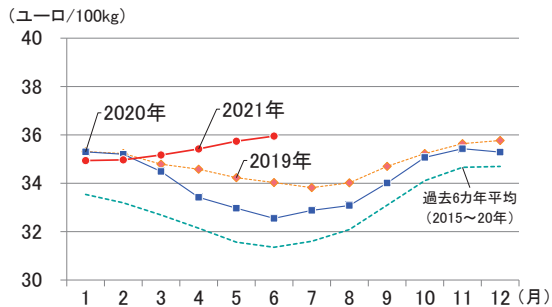
6月の生乳取引価格は前年同月をかなりの程度上回る

欧州委員会によると、EUの平均生乳取引価格は、バターの供給がひっ迫していたこと

に加え、中国の輸入需要による国際相場上昇に伴い、例年では春先から夏の時期にかけて生乳生産量の増加とともに同価格が下落していく季節傾向とは反対に上昇傾向で推移している。6月の同価格(推定値)は、100キ

ログラム当たり35.95ユーロ（4745円：1ユーロ=132円）と前年同月比10.4%高となった（図23）。なお、春先から夏の時期にかけて同価格が上昇傾向で推移するのは2014年以来的のこととなるが、EUの生乳出荷量が3月から3カ月連続で前年同月を上回って推移していることに加え、米国やオセアニアの乳製品相場も下落傾向にあることから、今後の価格動向が注目されている。

図 23 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」
 注1：直近月は推定値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

飲用乳などの輸出量は前年同期比増

欧州委員会によると、飲用乳など（飲用乳、クリームおよびヨーグルト）の2021年1～4月の輸出量は、飲用乳で40万9631トン（前年同期比2.7%増）、クリームで9万6529トン（同37.5%増）、ヨーグルトで11万1504トン（同40.0%増）となった（表11）。当該輸出量のうち、中国向けが飲用乳で56%、クリームで46%と大きな割合を占めている。

前述の農畜産物の短期的需給見通しによると、中国向けの輸出量の増加要因として、飲用乳は中国の乳価上昇により、同国国内での加工用としてEU産への需要が増加したこと、また、クリームは中国の外食産業の再開による需要回復が挙げられている。なお、ヨーグルト輸出量の増加は、主に英国向けの増加によるものとされている。

表 11 飲用乳などの輸出量の推移

（単位：千トン）

品目	2020年 (1～4月)	2021年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
飲用乳	399	410	2.7%
クリーム	70	97	37.5%
ヨーグルト	80	112	40.0%
合計	549	618	12.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」
 注1：HSコードは、飲用乳は040110、040120、クリームは040140、040150、ヨーグルトは040310。
 注2：製品重量ベース。

輸出が好調な一方で、1～5月の飲用乳などの生産量は、飲用乳で前年同期比0.6%減、クリームで同3.4%増、はっ酵乳で同2.4%減となった。

飲用乳の生産量は前年同期を0.6%下回ったものの、昨年の春から秋にかけて増産していたことを考慮すると、21年末まで安定的

に推移すると見込まれている。また、クリームは、前年同期を3.4%上回ったものの、今後はより多くの乳脂肪分がバターや全粉乳の生産に向けられることから、年間では前年比0.5%増とわずかな増加にとどまるものと見込まれている。

EUの飲用乳などの輸出が堅調であるとし

ても、これらは主にEU域内で消費されている。21年のEU域内での飲用乳などの消費量は、昨年の例外的な巣ごもり需要による高水準な消費を超える可能性は低く、前年を

0.5%下回ると見込まれている。

(調査情報部 小林 智也)

N Z

生乳生産量および輸出は好調も、取引価格は低調

2021/22年度の生乳生産量は、好調なスタート

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021/22年度（6月～翌5月）の幕開けとなる2021年6月の生乳生産量は、23万4423トン（前年同月比1.8%増）と前年同月をわずかに上回った（図24）。現地では、好調な輸出を背景に、ニュージーランド（NZ）乳業最大手のフォンテラ社が生産者支払乳価を、前年を上回る乳固形1キログラム当たり平均8NZドル（632円：1NZドル＝79円）としたことを受けて、酪農家が増産意欲を高めているとされる。なお、7～9月の天候についてNZ国立水・大気研究所（NIWA）は、気温・降雨量ともに、平年並みかそれ以上と予測しており、牧草地への好影響が期待される。

また、米国農務省（USDA）は、7月16

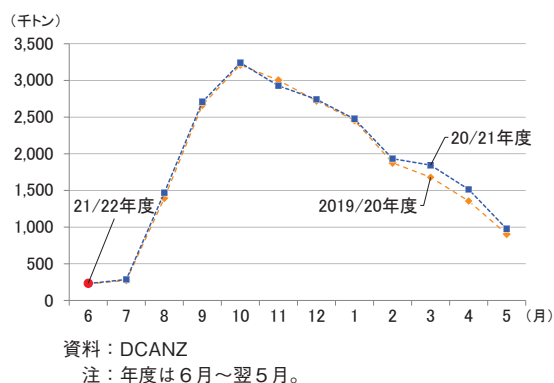
日に発表した「Dairy：World Markets and Trade」で、21年5月のNZの生乳生産量が前年同期より好調に推移していることを受け、21年（1～12月）の同国の生乳生産量予測を、前回公表（20年12月18日）の2220万トンから2240万トンに1%上方修正した。USDAは、乳牛頭数の減少が予測されるものの、1頭当たり乳量が増加することでその影響は相殺されると予測している。

主要乳製品4品目、すべての輸出が増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2021年6月の主要乳製品4品目（全粉乳、脱脂粉乳、バターおよびバターオイル、チーズ）の輸出量は、全品目で前年同月を上回った（表12、図25）。

品目別に見ると、全粉乳とチーズが前年同月に比べ大幅に増加した。全粉乳については、主な輸出先である中国向けが8万6109トン（前年同月比145.6%増）と大幅に増加した。なお、全粉乳輸出量全体に占める中国向けの割合も、前年同月の3割から5割へと大幅に拡大した。チーズについては、日本向けは3890トン（同30.4%減）と減少したものの、中国向けは9025トン（同18.7%増）、豪州向けは3901トン（同31.8%増）といずれも大幅に増加した。なお、チーズ輸出量全体に

図 24 生乳生産量の推移



占める中国向けの割合は、前年同月から変わらず3割程度であった。

Stats NZによると、これら乳製品などの一次産物の輸出が好調だった結果、21年6月の同国の総輸出額(全輸出品目の合計)は過去最高を記録した(60億NZドル、4740億円)^(注1)。また、同月の国別輸出額については、最大の

輸出先である中国が、総輸出額の3割(18億NZドル、1422億円)、乳製品輸出額の4割(7億300万NZドル、555億3700万円)を占めている。

(注1) 海外情報「2021年6月の牛肉輸出額、過去最高を記録(NZ)」(https://www.alic.go.jp/cho-sa-c/joho01_003015.html)を参照されたい。

表 12 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

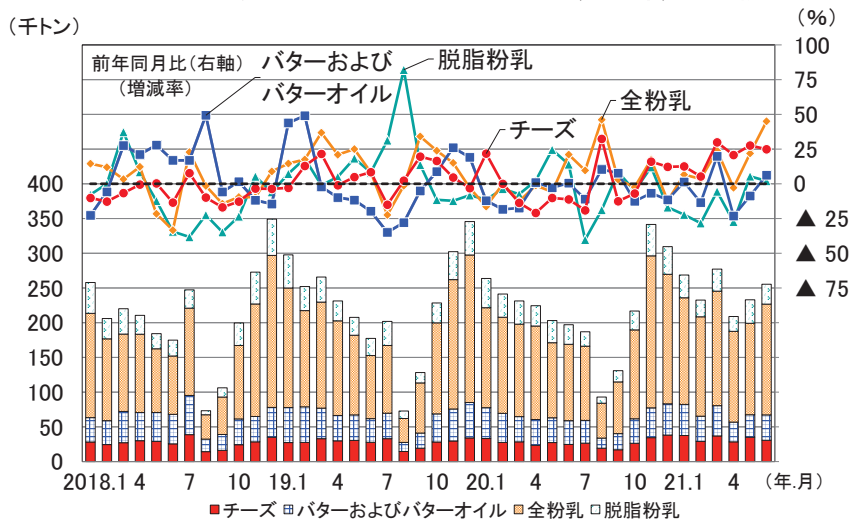
品目	2020年6月	2021年6月	前年同月比(増減率)	2020/21年度(7月～翌6月)	前年同期比(増減率)
脱脂粉乳	28,059	28,644	2.1%	329,972	▲ 12.2%
全粉乳	110,026	159,532	45.0%	1,648,391	9.7%
バターおよびバターオイル	34,334	36,475	6.2%	415,893	▲ 5.1%
チーズ	24,611	30,731	24.9%	359,684	11.0%

資料：Stats NZ

注1：製品重量ベース。

注2：年度は7月～翌6月。

図 25 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

GDT、市場関係者の予測に反して下落

2021年7月20日に開催されたグローバルデーリートレード(GDT：乳製品の国際価格の指標の一つであるフォンテラ社主催の電子オークション。月2回開催)の1トン当

たり取引価格は、「予想されていた結果とは全く異なる」と報道される結果となった。フォンテラ社が、今回のオークションを前にGDTでの全粉乳販売量を1000トン削減すると発表したことから、市場関係者は小幅な価格上昇を予測していた。しかし、その予測に

反して、全粉乳を含む3品目で前回に引き続き下落した（表13、図26）。

脱脂粉乳および全粉乳については、通常通り北アジア^(注2)が応札をけん引したものの、それぞれ前回比5.2%安の1トン当たり2971米ドル（33万3000円）および同3.8%安の同3730米ドル（41万8000円）となった。バターも、北アジアからの引き合いが強かったものの、応札量は前回より大幅に少なく、同0.8%安の同4419米ドル（49万5000円）となった。チーズは北アジアと東南アジアから同程度の応札があった結果、主要4品目の中で唯一、同1.3%高の同4022米ドル（45万円）となった。

現地では、今回の下落が生産者支払乳価の

引き下げにつながることを懸念する声もあるが、フォンテラ社は現地取材に対し、この下落は「予測の範囲内」とコメントし、現時点で乳価を引き下げる意向はないことを示唆するとともに、今回の下落には、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）デルタ株の流行が影響を与えたとの見解を示している。なお、COVID-19デルタ株の流行が乳製品市場や価格に与える影響について現地専門家は、アジアの主要な乳製品市場に特に焦点を当てながら、今後数週間にわたって注視する必要があるとコメントしている。

（注2） ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

表 13 GDT乳製品取引価格（2021年7月20日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

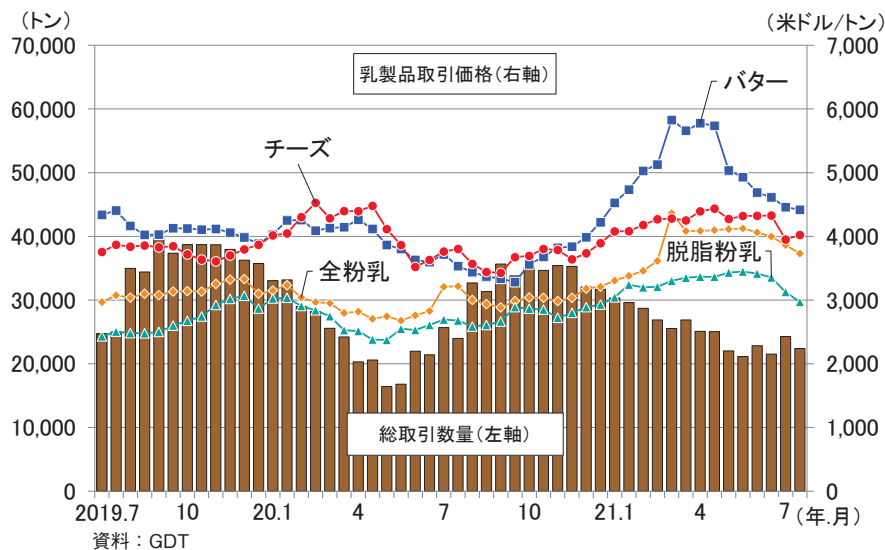
品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	2,971	33.3	10.9%	▲5.2%
全粉乳	3,730	41.8	15.9%	▲3.8%
バター	4,419	49.5	25.1%	▲0.8%
チーズ	4,022	45.0	5.8%	1.3%

資料：GDT

注1：1米ドル=112円として計算。

注2：前回は7月6日に開催。

図 26 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部 阿南 小有里）

飼料穀物

トウモロコシ

2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、前年度からかなり増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年7月12日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表14）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は前回から495万トン上方修正され、11億9480万トン（前年度比6.6%増、前月比0.4%増）と予測された。国別に見るとブラジル（同26.9%増）およびウクライナ（同23.8%増）では記録的な生産増が予測され、米国（同6.9%増）、アルゼンチン（同5.2%増）および中国（同2.8%増）でも過去最高水準に近い生産が見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億9884万トン（同8.6%増、同0.7%増）とわずかに上方修正された。国別に見るとブラジル（同53.6%増）とウクライナ（同32.6%増）で大幅な増加

が見込まれるものの、米国（同12.3%減）はこれら輸出国との競合により減少が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億8766万トン（同3.0%増、同1.0%減）とわずかに下方修正された。国別に見ると、主要輸入国である中国は2600万トンと前年度から変わらないものの、引き続き高水準での推移が見込まれている。

消費量は243万トン上方修正されて、11億8347万トン（同3.2%増、同0.2%増）とわずかに上方修正された。消費大国であるブラジル（同6.6%増）、米国（同1.2%増）および中国（同1.7%増）などで増加が見込まれている。

期末在庫は、2021/22年度の世界生産量の上方修正などに伴い、前月から0.6%増の2億9118万トン（同4.0%増）と見込まれている。

表 14 主要国のトウモロコシの需給見通し (2021年7月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	56.41	48.76	28.12	27.48	▲ 43.6%
生産量	345.96	360.25	380.76	385.21	6.9%
輸入量	1.06	0.64	0.64	0.64	—
消費量	309.55	309.77	312.82	313.45	1.2%
輸出量	45.13	72.39	62.23	63.50	▲ 12.3%
期末在庫	48.76	27.48	34.47	36.37	32.4%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	2.12	2.12	▲ 41.4%
生産量	51.00	48.50	51.00	51.00	5.2%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	—
消費量	13.50	14.50	14.50	14.50	—
輸出量	36.25	35.50	36.00	36.00	1.4%
期末在庫	3.62	2.12	2.63	2.63	24.1%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	5.23	—
生産量	102.00	93.00	118.00	118.00	26.9%
輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70	▲ 51.4%
消費量	68.50	68.50	73.00	73.00	6.6%
輸出量	35.23	28.00	43.00	43.00	53.6%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	8.93	70.7%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.89	0.89	▲ 39.9%
生産量	35.89	30.30	37.50	37.50	23.8%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	—
消費量	6.40	7.90	6.80	6.80	▲ 13.9%
輸出量	28.93	23.00	30.50	30.50	32.6%
期末在庫	1.48	0.89	1.11	1.11	24.7%
中国					
期首在庫	210.16	200.53	198.18	198.18	▲ 1.2%
生産量	260.78	260.67	268.00	268.00	2.8%
輸入量	7.60	26.00	26.00	26.00	—
消費量	278.00	289.00	294.00	294.00	1.7%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	—
期末在庫	200.53	198.18	198.16	198.16	▲ 0.0%
世界計					
期首在庫	322.56	305.46	280.6	279.86	▲ 8.4%
生産量	1,117.56	1,120.65	1,189.85	1,194.80	6.6%
輸入量	167.59	182.16	189.51	187.66	3.0%
消費量	1,134.66	1,146.25	1,181.04	1,183.47	3.2%
輸出量	172.41	183.10	197.47	198.84	8.6%
期末在庫	305.46	279.86	289.41	291.18	4.0%

資料：USDA

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、9%台の見込み

USDA/WAOBは2021年7月12日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表15）。

生産量は作付面積の増加を受けて151億6500万ブッシェル（3億8521万トン^{（注）}、前年度比6.9%増）と予測されており、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）をわずかに上回る水準となっている。

消費量は飼料など向けの需要がわずかに上方修正され、全体では123億4000万ブッシェル（3億1345万トン、同1.2%増）と予測された。

輸出量は生産量の増加に伴い上方修正され

たものの、25億ブッシェル（6350万トン、同12.3%減）と記録的な輸出量となった前年度からかなり大きく減少すると予測された。期末在庫は、国内消費量が増加するものの、作付面積の増加を受けた生産量の増加が上回ることに伴い、前月から5.5%増の14億3200万ブッシェル（3637万トン、同32.3%増）と予測された。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は前月から0.4ポイント増の9.6%（同2.4ポイント増）となった。

また、生産者平均販売価格はわずかに下方修正され、1ブッシェル当たり5.60米ドル（616円。1キログラム当たり24.3円）と予測された。

（注） 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表 15 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年7月12日米国農務省公表）

区分	—単位—	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			
				(6月予測)	(7月予測)	参考(換算値)	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.8	91.1	92.7	37.5 (百万ヘクタール)	2.1%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.5	83.5	84.5	34.2 (百万ヘクタール)	2.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0	179.5	179.5	11.3 (トン/ヘクタール)	4.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,182	14,990	15,165	385.21 (百万トン)	6.9%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	25	25	25	0.64 (百万トン)	—
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,107	1,082	27.48 (百万トン)	▲43.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,127	16,122	16,122	409.51 (百万トン)	▲0.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,195	12,315	12,340	313.45 (百万トン)	1.2%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,898	5,725	5,700	5,725	145.42 (百万トン)	—
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,288	6,470	6,615	6,615	168.03 (百万トン)	2.2%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,050	5,200	5,200	132.09 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,850	2,450	2,500	63.50 (百万トン)	▲12.3%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	15,045	14,765	14,840	376.95 (百万トン)	▲1.4%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,082	1,357	1,432	36.37 (百万トン)	32.3%
期末在庫率	(%)	13.7	7.2	9.2	9.6		2.4ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.40	5.70	5.60	24.3 (円/kg)	27.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 水野 崇)

大豆

2021/22年度世界の期末在庫量、中国の飼料需要の緩和により上方修正

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年7月12日、「Oilseeds: World Markets and Trade」で2021/22年度の世界の大豆需給予測値を、また、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は同日、2021/22年度（9月～翌8月）の世界の主要農作物需給予測値をそれぞれ更新した。

これによると、2021/22年度の世界の大豆生産量は、前回より30万トン上方修正され、前年度比6.0%増の3億8522万トンと2年連続で増加し記録的な水準になると見込まれている（表16）。最大の生産国であるブラジルの生産量が過去最大となるほか、米国やアルゼンチンといった主要生産国も前年度を上回ると見込まれている。なお、2020/21年度分において、アルゼンチンが50万トン下方修正された。

輸出量は、前回とほとんど変わらず同4.4%増の1億7285万トンと前年度をやや上回ると見込まれている。最大の輸出国であるブラジルは、生産量の増加を背景に同12.0%増の9300万トンと前年度をかなり大きく上回る一方、米国は、前年度からの繰越在庫量が少ないことや国内需要が強いことから同8.6%減の5647万トンと前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。一方、輸入量は、中国が前回から100万トン下方修

正され同3.6%増の1億7171万トンとなった。なお、2020/21年度分において、ブラジルの輸出量が300万トン、アルゼンチンが265万トンそれぞれ下方修正される一方、中国の輸入量が200万トン下方修正された。世界の大豆貿易は、アフリカ豚熱収束後、豚飼養頭数の回復が見られる中国が需要をけん引してきたが、最近では、同国における豚肉供給量が増加し生体豚価格が低下した結果、大豆かすの需要が減少している。このため、大豆輸出入量は、米国産大豆の収穫開始前の2021年9月までの3カ月間、減少傾向で推移するとされている。

消費量（搾油仕向け）は、前回より35万トン上方修正され同3.1%増の3億3204万トンと見込まれている。最大の消費国である中国は前回から修正はなく、アフリカ豚熱からの豚飼養頭数の回復により同4.2%増の1億トンとやや増加すると見込まれている。

期末在庫量は、前回より149万トン上方修正され、同3.3%増の9449万トンとなり、2015/16年度以来の低水準となった2020/21度よりやや回復すると見込まれている。前述の通り2020/21年度の輸出量が減少したことから、ブラジルが330万トン、アルゼンチンが165万トンそれぞれ上方修正された。

表 16 主要国の大豆需給見通し(2021年7月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(6月予測)	(7月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
生産量	96.67	112.55	119.88	119.88	6.5%
輸入量	0.42	0.54	0.95	0.95	75.9%
消費量	58.91	59.06	60.56	60.56	2.5%
輸出量	45.70	61.78	56.47	56.47	▲ 8.6%
期末在庫	14.28	3.66	4.22	4.22	15.2%
ブラジル					
生産量	128.50	137.00	144.00	144.00	5.1%
輸入量	0.55	1.00	0.65	0.65	▲ 35.0%
消費量	46.00	46.75	47.70	47.70	2.0%
輸出量	92.14	83.00	93.00	93.00	12.0%
期末在庫	20.74	26.34	24.34	27.64	4.9%
アルゼンチン					
生産量	48.80	46.50	52.00	52.00	11.8%
輸入量	4.88	4.70	4.70	4.70	0.0%
消費量	38.77	41.50	42.50	43.00	3.6%
輸出量	10.00	3.70	6.35	6.35	71.6%
期末在庫	26.70	25.50	23.85	25.50	0.0%
中 国					
生産量	18.10	19.60	19.00	19.00	▲ 3.1%
輸入量	98.53	98.00	103.00	102.00	4.1%
消費量	91.50	96.00	100.00	100.00	4.2%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	26.80	29.80	34.00	34.00	14.1%
世界計					
生産量	339.41	363.57	385.52	385.22	6.0%
輸入量	164.97	165.79	172.71	171.71	3.6%
消費量	311.49	321.97	331.69	332.04	3.1%
輸出量	165.06	165.49	172.90	172.85	4.4%
期末在庫	96.53	91.49	92.55	94.49	3.3%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 井田 俊二)